

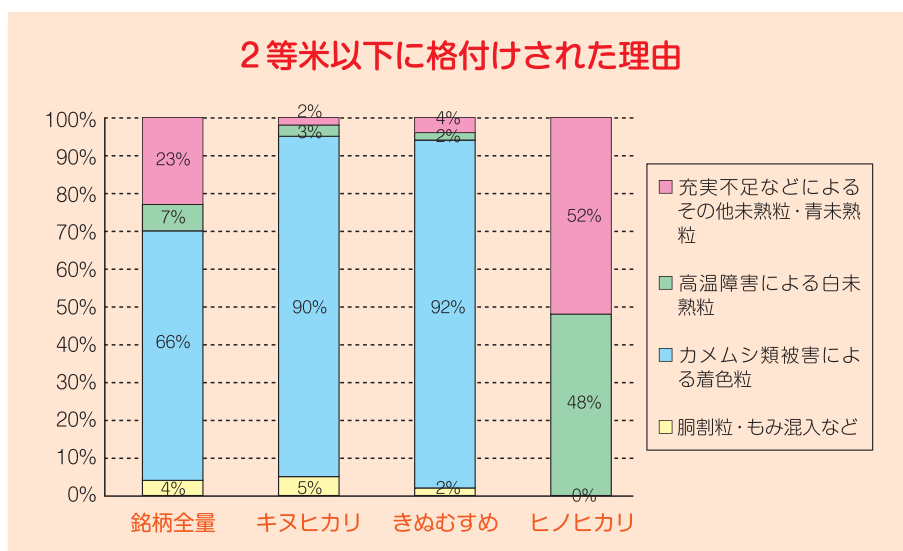
平成23年度産米の報告

平成23年度は、6月中旬までの日照不足により穂数はやや少なくなったものの、その後の天候回復により1穂当たりもみ数はやや多くなり、大阪府の作況指数は「101」となりました。JA大阪北部出荷量も約660tとなり、前年比128%と大幅に増えました。

平成23年産米について、各支店での店頭販売や学校給食米など、JA大阪北部管内を中心に販路の拡大に努めています。

検査結果の状況

9月12日の能勢営農経済センターから始まった平成23年産米の等級検査を品種別に見ると「**キヌヒカリ**」と「**きぬむすめ**」では、昨年よりもカメムシ類の被害が増え、「**ヒノヒカリ**」では、高温障害による白未熟粒が多く見られました(12月1日現在)。



平成24年作付けへの課題

1. 斑点米カメムシ類対策

2等米以下の半数以上がカメムシ類被害による着色粒(斑点米)による理由で等級が落ちています。スタークル粒剤やトレボン粉剤DLなどの薬剤散布だけでなく水田周辺や水田内の雑草管理も行い、地域全体で取り組むようにしましょう。

2. 高温障害対策

出穂期が高温になると白未熟粒(心白粒や腹白粒)が多くなってしまいます。

- ①気温が下がる夜間に水をかけ流して水温を下げる。
- ②中干しを行い、根の活力を高める。
- ③根の活力を維持するために、収穫前は早めに水を落とさない。

営農

インフォメーション



EINOU

information

平成24年の水稻栽培に向けて